

春の里山体験

4月9日(土) ~ 4月10日(日)

IN とちわら子ども自然体験キャンプ場



	午前	午後	夜
1日目	施設に移動	山菜摘み・野菜収穫体験	夜の里山散歩
2日目	農作業体験・野外炊飯	清掃、施設を出発、解散	

一日目： 尼崎からバスで向かい施設に到着すると、寒い春も終わり、暖かい空気が漂っていました。施設内で昼食を済まし、その後に施設探検をしました。普段住んでいる家とは全く異なっており、どれを見ても「へえ～」と感心を持たれていました。屋外に出て、落ち葉を使った名札作りを行いました。すっかり里山の空気に飲み込まれたのか、里山を楽しんでいる感じが伝わって来ました。その後は今回のビッグイベントである『山菜摘み』を行いました。普段公園などで見慣れているものから見たことのないもの、面白い名前のもなど、とにかく沢山の発見や驚きがありました。初めは嫌がっていた子も途中からは摘むのに必死になっていました。それらを食べるのだから、料理として出てくる時も「おおっ」と歓声が沸き上がりました。もちろん美味しく食べました。片付けをし、夜の里山を散歩しに行きました。街中とはかけ離れた静けさで、その理由を話すとお百姓さんの苦勞とありがたさを感じたようでした。就寝は部屋に布団を敷き詰め、みんなで川の字になって寝ました。何から何まで新鮮さを肌で感じた一日でした。



二日目： 例年より寒くなく、暖かい朝を迎えました。起床すると、洗顔や着替えを済まし、それぞれが今出来ることを探しにリーダーやオーナーの『あさぼらけ』に聞いていました。布団を片付けたり、朝ごはんの準備を手伝ったりして、テキパキと動いていたので、キャンプに順応してきたのだと思いました。朝食後は、農作業体験を行いました。内容はじゃがいもの苗上と草抜きです。作業の前に何故行うのかをしっかりと話をさせてもらったので、みんな予想以上に文句もなく、黙々と作業をしていました。体験の合間の休憩が何よりよかったのでしょうか。お茶を飲んでいる顔に自然と微笑みが浮かんでいました。余った時間は周辺散策を行い、昼食の山菜スパゲッティを食べました。もうすっかりと当たり前のように山菜を食べていたので、ビックリしました。昼食後はお世話になった施設を掃除し、終わる頃にはバスが来たので、あさぼらけに別れを告げ出発しました。帰りにお土産としてもらった『水菜』を大事そうに持っている姿がキャンプに対する満足度を物語っていました。



<キャンプ総括>

今回、一番驚いたのが参加者達の『適応力』です。一日目の到着時は、小さい虫一匹にワーワー言っていたのに、二日目には当たり前の振る舞いをしていました。食べ物も普段食べているものとは異なるもので、収穫時から渋い顔をしていたのですが、一度食べ美味いと判断すると、こぞって食べに来るほどになっていました。今回を通して体験、経験し、適応して、自分のものにしていくプロセスをしっかりと感じる事ができました。キャンプの出発前に尼崎で今回のやることをどんなに話しても、イメージがつかない。つまり、伝わっていない。現地に着き初めて理解できるのでしょうか。まさしく『論より証拠』。相変わらず里山という場所はスゴイところです。(竹中 哲郎)